

令和5年度 奈良県立畝傍高等学校定時制課程 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和5年度(中期計画2年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	多様な学びのニーズに応え、自立した社会人を育成します
年度重点目標	1 生徒の興味・関心を高める授業の工夫と改善 2 面談や対話的指導の充実 3 挨拶の励行と学習環境の整備 4 人権教育研修等の充実

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本課程では、以下のような生徒を受け入れます。 1 就労と学習の両立を望む生徒 2 学び直しを望む生徒 3 基礎学力の習得と向上を目指す生徒 4 社会的・職業的自立を果たすための自己研鑽を望む生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本課程では、本課程の使命(スクール・ミッション)を実現するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。 1 基礎学力の定着と向上を図るカリキュラムを編成します。 2 在学3年での卒業(三修制)を可能とするカリキュラムを編成します。 3 生徒個々に応じた適切な指導を行います。 4 社会生活に必要な自立・自律心を育成します。 5 望ましい就労生活を送るためのキャリア教育を行います。 6 自他の敬愛と尊重の態度を育成します。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、校訓である「至誠、至善、堅忍、力行」の精神を涵養し、以下の資質・能力を身につけた生徒を育成します。 1 心の誠実さ、人としての善良さを、何ものにもまして大切にすることができる。 2 目標が達成されることを信じて、粘り強く努力し続けることができる。 3 社会人としての自覚と望ましい勤労観、自律心、生活習慣をもつ。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和5年度末の目標値等(C)	令和5年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	望ましい生活習慣の確立	面談による生徒への生活習慣改善の提案と指導。	生活習慣に関する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答70%以上	個々に面談を繰り返し、生活習慣が改善され欠席・遅刻が減少する生徒もいるが、特定の生徒は不登校傾向が続いている。 アンケート項目の肯定的回答(70.9%)	B	B	個々の生徒の現状を把握し、個別の対応を根気よく継続する。保護者の方との連携を深め、生徒に対して学校生活の大切さを理解させ支援していく。
	生徒の自己有用感の向上	生徒が企画・立案する生徒会活動の活性化。	自己有用感に関する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答65%以上	生徒会を中心に学校行事の企画・立案をし、全生徒が活動する有意義な内容の催しが実施されている。 アンケート項目の肯定的回答(87.5%)	A	A	次年度に向けて改善点を探り、より充実した生徒会活動を計画する。また、行事を通して学校生活の楽しさや充実感を経験できるよい機会をつくる。
	基本的な生活習慣・規範意識醸成指導の充実	挨拶運動の展開。教室清掃や整備の励行。	規範意識醸成に関する「生活アンケート」項目の肯定的回答85%以上	生徒登校時に教員による校門での立哨指導を継続し、あいさつの励行を促した。外部講師の方を招き講演を実施して規範意識を向上させた。 アンケート項目の肯定的回答(93.1%)	B	A	生徒会を中心に生徒たち自らがあいさつ運動を行ったり、清掃活動に取り組みたりする主体性を充実させる機会を増やす。
2. 学ぶ力、考える力、探究する力をはぐくむ	学習意欲の向上	電子黒板の活用・BYOD指導の校内研修の充実。	学習意欲に関する「授業アンケート」項目の肯定的回答65%以上	ICT機器を活用した授業展開の職員研修を毎月一回行い、授業での工夫を重ね評価と指導に活かした。 アンケート項目の肯定的回答(79%)	A	A	職員研修を継続し、学習意欲の向上につながる新しい取組にチャレンジし、日々の授業の中で活用する。
	学力の習得と向上	教員相互の授業見学による指導力向上。	授業内容の理解に関する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答70%以上	本課程では他教科ではあるが相互に授業を見学。少人数の生徒に対して一人一人丁寧に指導を行う研修に重点をおいた。 アンケート項目の肯定的回答(89.6%)	A	A	個々の生徒の学力を把握し、各教科の観点別評価を今まで以上に生徒に理解させる。学習指導の中で何を頑張ることが自分の学力を伸ばすことにつながるのか明確に指導する。
	コミュニケーション能力の向上	話し方講習会やマナー講演会の企画・立案。	コミュニケーションスキルアップを図るホームルームや講演会の年1回の計画と開催	全校生徒を対象に「コミュニケーション能力を高める」をテーマに講演会を実施。	B	B	講習会で学んだコミュニケーションスキルを実践できる機会を設ける。
	学校における働き方改革	ワークライフバランスを意識した働き方を推進する。	学校閉庁日の設定年間2日以上	夏季休業中に2日間、学校閉庁日を設定。 夏季休業中に先生方に昼勤務の日を設けた。	B	B	
3. 働く意欲と働く力をはぐくむ	キャリア教育の推進	外部講師による進路講演会の充実。	進路ホームルーム年2回、進路講演会年1回の開催	進路講演会を2回実施。進学については大学・短大・専門学校から講師の方を招き、就職については企業の人事担当の方に来ていただき講演をしていただいた。	A	A	次年度は企業見学を実施する。
	進路情報提供の充実	学校発出文書の発行(進路だより)。	学校からの進路情報提供に関する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答65%以上	生徒個々に対しての進路情報は提供され進路決定に役立った。 アンケート項目の肯定的回答(91.7%)	A	A	定期的な「進路だより」を発行し各学年で必要とされる進路情報を提供。生徒が「進路」に対する取組を第一学年時から積極的に行えるようにする。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	コミュニティ・スクールの運営	学校運営協議会での意見を参考とした行事・計画の立案。	学校運営協議会の定期開催(年3回)	定期的に実施(年間3回)し、学校(定時制)の活動に対するご理解をいただいている。	B	B	
	郷土の伝統、文化、自然等に関する学習の推進	「奈良TIME」に関連する内容を取り入れた授業の立案。	奈良県の地場産業に関する「奈良TIME」の学習活動年2回	総合的な探究の時間に、奈良県内の「地場産業」をテーマに2回にわたり学習を実施。生徒たちが自分たちで調べたことをまとめて発表した。	B	B	「総合的な探究の時間」だけでなく、教科の横断的なつながりを持って地域や伝統文化の学習を展開して行く。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	いじめアンケートの実施と考察。	いじめのない学級・学校づくりに関する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答100%	いじめアンケートでは、いじめは認知されていない。 アンケート項目の肯定的回答(91.7%)	B	B	学校は安全・安心な場であることが最優先されること、生徒が不安を感じたりすることのないクラス経営を教師間の情報共有と日頃の指導(観察や面談等)を充実させることに重点を置き取組を行う。
	人権教育の推進	人権HRおよび人権講演会の企画・立案。	人権意識の向上に関する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答100%	職員研修を実施し生徒の現状を理解した人権HRを展開した。 アンケート項目の肯定的回答(89.6%)	B	B	生徒の現状と実態を捉え、時代や社会的な背景も含め、年間計画を立案し取り組みを進めていく。
	個別の教育支援計画や個別の指導計画の実効性ある活用	各学期に面談を行い生徒の実態を確認。	生徒の支援に対する「学校生活アンケート」項目の肯定的回答85%	毎学期当初に個人面談を実施。生徒理解に努め、教職員間の情報共有の充実を継続的に回った。 アンケート項目の肯定的回答(91.7)	B	A	不登校傾向にある生徒や欠席・遅刻が多い生徒に対して、学校だけでなく家庭や専門機関と連携し取組を強化していく。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

2回の学校生活アンケートにおける、「私は本校に入学して良かったと思っている。」という質問の肯定的回答は91.7%となっている。生徒会を中心に生徒が主体となって活動した学校行事等が、よい効果を生んでいる。少人数の生徒に対して先生方が丁寧に学習指導等を行い、生徒及び保護者からの信頼は厚い。(保護者アンケートの「教員の対応は親切で誠意がある。」の肯定的回答は100%である)	数値目標 項目(C)に対する項目(D)の達成率 A = 120%以上 B = 80%以上120%未満 C = 80%未満
---	--